



Research Database No.u003

「噂の検証ファイル～くさい玉の正体を調査せよ」

2004/01/11 報告

喉から飛び出す「くさい玉」

2000年1月、インターネットにある掲示板の書き込みから、爆発的に広がった噂があった。

ある女子高生が、数日前から喉の奥に何か異物があるような感じがして気になっていたという。そんなある日、彼女が咳をした途端…

何と口の中から、白い玉が飛び出したのである。その物体は、一見まるで紙粘土を丸めたようで、大きさは直径5～6ミリ。触ってみると柔らかく、弾力性があった。さらに力を込めてみると、その物体はぐにやりと潰れ、その瞬間！



思わず鼻を覆うほど、強烈な生臭いニオイを放ったのである。

そこで彼女は、この玉を「くさい玉」と命名し、出るたびに潰して遊ぶようになった。

しかし、大人になった現在でも時々「くさい玉」が飛び出すことに、彼女は『これは何か重大な病気の兆候ではないのか』と、不安になり始めた。そこで原因を突き止めようと、インターネットの掲示板に『くさい玉』のことを書き込んでみたのである。

すると…全国から、「私も出ます!」「仲間がいてうれしい」「自分だけかと悩んでいた」という人が続出。「自分が出ないからわからない」というメールも含め、喉から出る謎の塊について、800人近くから反応があったというのだ。



これが、「くさい玉」に関する噂である。

『口の中から突然、潰すと強烈に臭う「くさい玉」が出ることもある』。

果たして、この噂は本当なのか？

インターネットの掲示板に寄せられたメールで、くさい玉の正体として最も疑われていたのは、痰。だが、東京医科歯科大学の岸本誠司教授によれば、痰は、そもそも肺や気管支から出る分泌物であり、くさい玉のような強烈な臭いを発することはまずないのだという。

そこで、さらに調査を進めたところ、このくさい玉に似ているものがあるという証言を得た。笠井耳鼻咽喉科クリニックの笠井創医師によれば、このくさい玉は「膿栓」と呼ばれるものではないかという。

